

主 題：主イエスの祈り 6

聖書箇所：ヨハネの福音書 17章24－26節

今日、私たちはもう一度、このヨハネの福音書17章のみことばを学んで行きますが、来週からはよいよ「ローマ人への手紙」をごいっしょに学んで行きたいと思えます。皆さん、できれば読んでいただいて来週またお集まりください。今日は17章の最後、24節から26節までを見て行きます。

17:24 父よ。お願いします。あなたがわたしに下さったものをわたしのいる所にわたしとごいっしょにおらせてください。あなたがわたしを世の始まる前から愛しておられたためにわたしに下さったわたしの栄光を、彼らが見られるようになるためです。

17:25 正しい父よ。この世はあなたを知らません。しかし、わたしはあなたを知っています。また、この人々は、あなたがわたしを遣わされたことを知りました。

17:26 そして、わたしは彼らにあなたの御名を知らせました。また、これからも知らせます。それは、あなたがわたしを愛してくださったその愛が彼らの中にあり、またわたしが彼らの中にいるためです。」

☆主イエスの祈り

3. 未来の信者たち、私たちのための祈り

イエスの祈り、「主の祈り」を私たちは学んで来ています。イエスご自身のことを祈られた後、弟子たちのために祈られ、そして、未来の信者たち、私たちのために祈ってくださった、そのことを今まで見て来ました。

1) 一つになりなさい

一つになって行くようにというのがこの未来の信者たち、私たちに対する祈りだということをお前回見ました。それは、教理を度外視して集まればよい、ごいっしょになればよいのだということをお教えているのではないことを見ました。(1) **キリストのからだに属する者**＝イエス・キリストによって人種も国籍も階級も身分も全く関係なく、みな一つにされて行くと。その祈りは確かに聞かれました。私たちはそのことを今もこうして楽しむ者です。また同時に、(2) **みことばを愛することによって一致する**＝本當に救われたすべてのクリスチャンたちがみことばを愛する者となって行くように、そして、同時に、お互いを愛する者になるようにということをおイエスは望まれたのです。なぜ、そのことが大切なのか？なぜ、一人ひとりがみことばに従い、一人ひとりが愛する者として歩んで行くことが必要なのか？それは、そのときに少なくとも一致が生まれるからであり、その一致をもって私たちはこの世の中に対してキリストのすばらしさを証して行くことができるからです。兄弟姉妹がいがみ合っていたら、憎しみ合っていたら、愛、赦し、恵みの神を私たちは証することはできません。私たちがキリストによって変えられた以上、私たちを生まれ変えらせてくださった神を明らかにするためには、私たちは新しく生まれ変わった者として生きて行くことが必要なのです。

◎一致を実現するために

確かに、このようなことを繰り返し耳にするのですが、正直なところ、それは難しいということをお私たちは知っています。だから、みことばは私たちに「確かにあなたの力では無理だよ、あなた自身では不可能だよ、でも、神にあってそれが可能である」ということを、この祈りも私たちに教えてくれたのです。(1) **神とつながっている**：あなたは神と結ばれた者、ちょうど、ぶどうの木が枝とつながっているときに実を結ぶように、あなたもキリストに神に結ばれた者だと言います。しかも、(2) **キリストが私のうちにいてくださる**：キリストがあなたのうちにいてくださっている、それ以上何を必要とするのかと言います。人を愛することができるのも人を赦すことができるのも、それは愛であり、赦しの神が私たちのうちにいてくださるから可能になるのです。ということで、私たちは信仰生活の基本、土台を見たのです。いかに私たちが自分の力に頼るのを止めて主の力に依存して生きて行くかです。私たちの愚かさとは「自分でできる、自分は何とかやって行ける」と思うところにあります。「大丈夫、私はできる、私は頑張れる」と言うところに私たちの問題があることを、私たちは実生活で信仰生活の中で繰り返し学んで来たはずですが。頑張って信仰生活を守れると思っても、私たちは弱い者であり、すぐに妨げを経験するのです。私たちの信仰の基本は、自分の力に頼るのを止めて、知恵に頼るのを止めて、この私たちのうちにおられるキリストに頼って生きることです。そのことを前回私たちは見てきたのです。(3) **神は私たちを用いてご自身の栄光を現わされる**：その時に、神はあなたを用いてご自身のすばらしさをこの世の中で明らかにして行かれる、ちょうど、父なる神がイエス・キリストをこの世にあっ

てお用いになったようにと、そのことを私たちは見たのです。

2) 永遠に関して

ここまで見て来て、私たちが感じたこと、また、教えられたことは、私たちは本当に神によって多くの祝福を得ているということです。でも、そう言いながら、私もその祝福のすべてを知っていません。だから、あなたも恐らく、神によって祝福されていることをご存知だとは思いますが、そのすべてを知っていないでしょう。私たちが思う以上に、考える以上に、神が私たちのために備えてくださったものは遥かに大きなものです。そのすべてを今私たちは知ることがなくても、みことばを学ぶことによって私たちは少しずつそのことが分かって来ます。神が私たちを用いてくださるということだけでも大きな祝福ですが、それ以上に、このような祝福が今読んだ24節に記されています。それは永遠の祝福です。

(1) 私たちはイエスとともに永遠を過ごすことになる 24 a 節

24節「父よ。お願いします。あなたがわたしに下さったものをわたしのいる所にわたしといっしょにおらせてください。」「あなたがわたしに下さったものを」とはクリスチャンたちのことです。信者であるあなたのことです。「彼らがわたしのいるところにいっしょにいるように」と、イエスが父なる神に求めておられること、つまり、イエスが祈っておられる最初のことは、クリスチャン一人ひとりがイエスと永遠を過ごすということです。このヨハネの福音書14章でイエス・キリストがこれから居なくなるという話をされたとき、弟子たちは動揺しました。14:3「わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとのに迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。」と、そのようにイエスは約束されて、このことを父なる神にここで祈っておられるのです。私たちが肉体の死を迎えるなら、間違いなく、たましいはキリストの許に上がります。私たちはこの主とともに永遠を過ごすのです。この約束はただの希望ではありません。これは神ご自身の約束です。変わることはない、そして、「できない」と神が言われることなどあり得ない約束です。私たちがキリストにお会いしたときに、イエスとともに永遠を過ごすそのときに、いったいどのようなことが起きるのでしょうか？少なくとも、いくつかのことが私たちには分かります。

◎イエスとともに過ごすとき、私たちに起こることとは？

a) 完全にきよい者にされる

一つは、そのとき私たちは完全にきよい者にされることです。私たちがイエスにお会いするときに、今この地上にあって戦い続けている罪から完全に解放されます。Iコリント1:8で「主も、あなたがたを、私たちの主イエス・キリストの日に責められるところのない者として、最後まで強く保ってくださいます。」とパウロは教えています。私たちがイエスの前に立つときに、私たちには責められるところがないと言うのです。なぜでしょう？罪が完全に永遠に赦されているからです。そして、私たちはそのときにこの罪から完全に解放されて行くのです。

b) 完全な知識を得る

Iコリント13:12で「今、私たちは鏡にぼんやり映るものを見ていますが、その時には顔と顔とを合わせて見ることになります。今、私は一部分しか知りませんが、その時には、私が完全に知られているのと同じように、私も完全に知るようになります。」、まだ、私たちはすべてのことが分かっていない、でも、私たちがイエスのところに行くときに、私たちは分かっていなかったことを神によって知らされると言うのです。

c) 栄光のからだをいただく

また、皆さんご存じのように、私たちはそのときに栄光のからだをいただくのです。ピリピ3:21で「キリストは、万物をご自身に従わせることのできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じ姿に変えてくださるのです。」とパウロは教えています。

ですから、私たちが私たちの将来を見たとき、私たちにはすばらしい約束が与えられていることが分かります。今、あなたはクリスチャンとしてこの地上にあって正しく生きようとされています。どうしてそのような思いをもって生きているのでしょうか？あなたが新しく生まれ変わったからです。しかし、残念ながら、私たちはこの罪の誘惑の中であって敗北を繰り返しています。自分自身がいやになって来ます。情けなく感じます。何と私は弱いのだろう、どうして、このように信仰生活の歩みをしているにもかかわらず同じ罪を繰り返すのだろうと。しかし、私たちがイエス・キリストにお会いするときに、私たちはその罪から完全に解放されて新しい者へ変えられて、新しいからだをいただくのだと、そのように教えているのです。少なくとも、私たちは将来を見たときに何か大きな希望があるはずです。クリスチャンにとって「死」というのは恐ろしいものではなく、私たちはその日のある意味で待望しています。だからと言って、自分で自分のいのちを取ってもいいと、そのようなことを言っているわけではありません。私たちはこの地上に生かされているのであって、このいのちをしっかりと果たして行くことが必要です。しかし、私たちはこの死を迎えたときに、その先にはすばらしい約束が神によって与えられていることを見るのです。

(2) 主の栄光を見ることになる 24b節

私たちはイエスとともに永遠を過ごす、同時に、この24節で教えているように、私たちはこのイエス・キリストの栄光を見るのだと言います。そのことが24節の後半に記されています。「**あなたがわたしを世の始まる前から愛しておられたためにわたしに下さったわたしの栄光を、彼らが見るようになるためです。**」。あのイエス・キリストが特に愛された弟子たち、ペテロ、ヨハネ、ヤコブは山上においてイエス・キリストの栄光を見ました。そのことは新約聖書の中に記されていますが、そのときイエスの栄光を見た彼らは驚きました。しかし、みことばが約束していることは、私たちが後にはこのイエス・キリストのその栄光を実際に目の当たりにするということです。Iヨハネ3：2でヨハネはこのようなことを教えます。「**愛する者たち。私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていません。しかし、キリストが現われたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです。**」、私たちはイエスを目の当たりにする、どれほどイエス・キリストが栄光に満ちたお方であるのか、そのことを私たちが目の当たりにすると言うのです。少なくとも私たちはそのことを待ち望みながら今日を生きることが出来ます。

多くの讚美歌が記されましたが、あのファニー・クロスビーが自分の目が開かれたときに最初に見たいのはイエスと言っています。だから、彼女は盲目でも歩み続けたのです。いずれにしろ、多くのクリスチャンたちが、時代を越えて、国境を越えて、国籍を超えて待ち望んでいるのは、私たちが愛してください、私たちのためにいのちを捨ててくださったイエスにお会いすることであり、その約束がここに記されているのです。私たちがこのすばらしい主の栄光を見ることになる、そのイエスを見ることになる、と言うのです。この24節のみことばを見て、恐らく、皆さんは勘違いされたいと思いますが、ある人々はこのように思うかもしれません。「**あなたがわたしを世の始まる前から愛しておられたためにわたしに下さったわたしの栄光を、彼らが見るようになる…**」と、つまり、歴史のどこかの時点でイエス・キリストが神になったかのように、父なる神がイエス・キリストにある時点で栄光を与えた、その時点でイエス・キリストが神になったと…。そのようなことを聖書は教えていないことは皆さんはよくご存じです。イエスがここで言われているこの「**栄光**」というのは、永遠に存在しておられる子なる神がある時点で神になったということではなく、人となられたイエスのことです。この世に人となってお生まれくださった方、イエスのことを話しているのです。私たちがそのことはもうすでに22節で見て来ましたが、一つだけここで私たちが覚えておきたいことは、24節で教えてくれるように、父なる神と子なる神イエス・キリストとの間には、永遠にわたって愛の関係が存在しているということです。世界を造る前から「**愛しておられたために**」とある通り、父と子の間にはこのように愛の関係が常に存在しているということを私たちは見ることが出来るのです。

◎忘れてはならない祝福とは？

さて、この24節まで、私たちはいろいろな祈りを見てきました。その祈りを振り返るときに、その一つ一つは私たち信者にとって大きな励ましであり、大きな祝福であることを知ります。私たち一人ひとりとはどのような祝福を神からいただいているのでしょうか？その一つ一つのことを私たちはしっかり覚える必要がありますが、どうしても、その中で一つだけ絶対に忘れてはならない祝福があります。それは、24節に記されているこのことばです。「**あなたがわたしに下さったものを**」と、この「**もの**」とは救いのことです。私たちクリスチャンはいろいろな祝福をいただいているのですが、その中で私たちがどうしても忘れてはならない祝福、それは**救い**です。そのことを忘れるなら、私たちは信仰が怪しくなってしまう危険性があります。私たちクリスチャンがどうしても忘れてはならないこと、日々私たちが覚えて感謝しなければならない神からの祝福、それはまさにこの「**救い**」なのです。私たちはすでに6節でそのことを見て来しました。クリスチャンとはどのような人か？クリスチャンとは神によって選ばれた者たちだと言います。17：6に「**わたしは、あなたが世から取り出してわたしに下さった人々**」と記されていました。ですから、もうすでに見て来たように、私たちクリスチャンというのは、父なる神によってこの世から選び出された者たち、選び出してくださいました者たちなのです。世界を造る前からキリストのうちに神はあなたを選んでおられたと言います。エペソ1：4、5、11「**4すなわち、神は私たちを世界の基の置かれる前からキリストのうちに選び、御前で聖く、傷のない者にしようとされました。**」、「**5神は、ただみこころのままに、私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ定められたのです。**」、「**11私たちは彼にあって御国を受け継ぐ者ともなったのです。私たちは、みこころによりご計画のままをみな実現される方の目的に従って、このようにあらかじめ定められていたのです。**」、どのみことばを見ても、それらが私たちに教え続けていることは、あなたは神によって選ばれていたということです。救われている皆さん、クリスチャンである皆さん、私たちがしっかり覚えなければいけないことはまさに神の恵みです。神があなたをこの世から選んでくださったのです。

続けて見て行きましょう。ヨハネ6：44でイエスは救いに関してこのように教えています。「わたしを遣わした父が引き寄せられないかぎり、だれもわたしのところに来ることはできません。…」と、つまり、言い換えるなら、私たちがイエスを信じるようになったのは、父なる神が私たちを引き寄せてくださったからだと言うのです。つまり、救いにおいてだれが最初に働きをなさったのか？それは神がなさったと言うのです。神があなたを引き寄せてくださった、だから、私たちはイエス・キリストのところに来ることができたのだと教えるのです。また、使徒13：48ではこのように記されています。「異邦人たちは、それを聞いて喜び、主のみことばを賛美した。」、これはパウロとバルナバが私たちは異邦人の方に向かうということを宣言したからです。それを聞いた異邦人たちは非常に喜んだと、そして、その後「そして、永遠のいのちに定められていた人たちは、みな、信仰にはいった。」、今話しているように、明らかに「救い」ということを見るとき神が働いてくださったのです。ヨハネ10：26でも信じない者たちに対してイエスはこのように言われています。ユダヤ人たちがイエスを取り囲んでいます、彼らは何度も何度もイエスの話を聞いているのに、そして、奇跡を見ているのに信じようとしません。「しかし、あなたがたは信じません。それは、あなたがたがわたしの羊に属していないからです。」と。ですから、今、みことばを見て私たちが教えられることは、イエスを信じている皆さん、神があなたを選んでいてくださった、神があなたを救いへと選んでいてくださった、あなたは神の羊だということです。だから、あなたは結果的にイエス・キリストを信じるに至ったのです。そのようにみことばが教えてくれています。神が私たちを選んでくださっていた、それゆえに、私たちはキリストの許に来たのです。ですから、このすばらしい「神の選び」ということを私たちクリスチャンは忘れてはならないのです。そうでない人々に対して、私たちが彼らを見下すようにと言っているのではありません。あなた方は選ばれていないと言って彼らをさばく、そのようなことを神は教えておられません。でも、少なくとも、救われた私たちはしっかりとこの神の恵みを見て、どうして神は私のような者を選んでくださったのですか？どうして私のような者にこんなすばらしい祝福をくださったのですか？と、そのことを覚えて神に感謝をささげることです。このような神のみわざがあって私たちはこの救いへと導かれたのです。

確かに、この「選び」というみことばを見るときに、間違いなく、ある人々は選ばれている人たちだけが救われるのは不公平だと言います。しかし、今、そのように思っている人が考えなければいけないことは、神はあなたに対して不公平かどうかということです。なぜなら、神は今日、あなたにいのちを与え、この日を与え、そして、福音を聞くチャンスを与えてくださっているのです。神はあなたが罪を悔い改めてイエスを信じ受け入れるようにと忍耐をもって待っておられるのです。だから、今日という日をあなたに与えてくださっているし、このような救いのチャンスも与えてくださっているのです。それでも神は不公平だと言うのでしょうか？愛のないお方だと言えるのでしょうか？ここまで神が救いの御手を差し延べてくださっているのに、その神に対して心を閉ざし、その神の愛を拒んでいるのはいったいなぜなのでしょう？あなたですよ、と言います。神ではありません。だから、あなたの罪がさばかれるときに何の弁解もできないのは、このさばきを受ける責任はあなたにあるからです。確かに、みことばはこういうことを教えます。しかし同時に、神は忍耐をもって一人でも多くの者が悔い改めに至ることを望んでおられるのです。あなたが悔い改めて、あなたがこの救いをご自分のものとされることを神はどれほど望んでおられることでしょうか！だから、忍耐をもって神はあなたのことを待っておられるのです。これは私たち救われているクリスチャンのことです。私たちはもっともっと神のくださった恵みというものを感謝しなければならないのです。私のような者を選んでくださり、私のような者にこのような恵みを与えてくださり、そして今、私たちは救われた者として、永遠を期待しながら待っているのです。イエスにお会いし、イエスとともに永遠を過ごす者へと変えられたのです。罪が赦されたと。

◎まとめ

1) 正しい神が私たちの信仰の土台

もう一度、17章に戻っていただいて、最後のところを見てみましょう。25、26節、ここではイエスは何も祈っておられません。どうも、この二箇所のみことばは今まで言って来たことのまとめのように思えます。25節「正しい父よ。」、このことばが私たちに大きな確信、安心をもたらしてくれます。私たちの神は正しいお方です。つまり、この方がなさることは常に正しいのです。この方が言われることは必ずそのようになって行くのです。この方の約束は必ず成るのです。だから、先ほどから見て来たように、私たちの信仰のその土台はただの希望ではないのです。私たちはいろいろな機会にいろいろな宗教の話を聞きます。私たちがいつも思うことは「では、そう言い切れるその根拠はいったい何なのか？」ということです。昨日、私はある友人の家族の葬儀に行つて来ました。最近では、お坊さんがお経とともに話をされます。その話だけを聞いていると皆なるほどと納得するかもしれません。しかし、このようにすればその人物は祝福を受けることができるのだと言われたとき、正直聞きながら思うことは、で

は、その根拠はいったい何なのか、そのように言い切れるのは何があるのか、どうしてそれが事実だと言えるのか？ということでした。偉い方のお話だから…と、でも、どうしてそれが事実だと言えるのでしょうか？では、私たちの信仰はどうでしょう？私たちの信仰はこの神にかかっているのです。どのような神ですか？正しい神です。絶対偽ることができない神、嘘をつくことができない神、言ったことを撤回することの絶対ない方、言われたことは絶対守られる方です。そして、この方が真実で正しい方であることはこの歴史が証明しています。常に神はこの世界において働いて来られました。そして、このみことばが真実であることはこの歴史も私たちに証明してくれます。そして、私たちがその証人です。イエス・キリストを信じることによって生まれ変わった私たちが、この聖書が、このキリストが真の神であることの証人です。そうですね皆さん、私たちは変わりました。自分の過去からを振り返って見たとき、今は違って来ているはずですが、私たちは今までになかった思いをもっています。この神を称えて行きたい、誉め称えて行きたいと。私たちは天国を待望してはいませんか？イエスにお会いすることを。それはだれかから言われてそのように信じなければいけないというのではなく、そのように私たちが信じる者に変えられて来たのです。私たちの父なる神は正しい方である、だから、その方に信頼を置くことができるのです。

この「正しい父よ。」ということばはいろいろな箇所使われていますが、Ⅱテモテ4：8では「**今からは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。かの日には、正しい審判者である主が、それを私に授けてくださるのです。私だけでなく、主の現われを慕っている者には、だれにでも授けてくださるのです。**」と、この「**正しい審判者**」の「**正しい**」ということばが同じことばです。つまり、パウロも私たちに教えてくれるのです。私たちの神はすべてのことをご存じだから、公平に公正にすべてのことをさばかれる、だから、私たちは心配しなくてもいいのです。人があなたを認めてくれなくても神がご存じです。人はあなたに対して不正な扱いをするかもしれませんが、神は不正な扱いはなさいません。あなたが主のために正しく生きるなら、人々が認めなくても、神は覚えてそれにふさわしい報いを与えてくださる、神は正しいお方だと言うのです。

この話をされた後、このように言われます。イエスはこの世には二種類の人たちが存在していることを25節で言っています。「**この世はあなたを知りません。しかし、わたしはあなたを知っています。また、この人々は、あなたがわたしを遣わされたことを知りました。**」と、二種類の人たちがいることが分かります。この神のことを知らない人たちと、この神のことを知っている人たちです。イエスがだれであるかを知らない人たちとだれであるか知っている人たちです。

(1) イエス・キリストの働き

イエスはどのような働きをされたのでしょうか？26節を見ると「**そして、わたしは彼らにあなたの御名を知らせました。**」と、イエスは父なる神のことを伝え続けたのです。ですから、この地上におられたときのイエスのおことば、イエスの行ないというのは、その当時の人々に、そして、私たちに真の神とはどういうお方なのかを知らしめたのです。イエス・キリストのことばが、態度が、行動が、生き方が、父なる神がどういうお方であるかを明らかにしました。そのイエスがこう言われます。「**また、これからも知らせます。**」と、その働きをこれからも継続しますと言われるのです。確かに、そのことはみことばが私たちに約束していることです。

(2) 聖霊の働き

ヨハネ14：26を見てください。「**しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。**」と。

(a) 神がどのようなお方かを明らかにする：つまり、イエスがこの地上におられたとき、イエスは父なる神を人々の前に明らかにされた、これからは、イエスの後遣わされて来る聖霊なる神がその働きを継続して行くと、そのように教えているのです。聖霊なる神がその働きを継続し、しかも、私たちもこの聖霊なる神によって、ますますこの神のことを知って行くことになるのです。

(b) みことばと聖霊によって私たちの信仰は成長する：もし、皆さんがこの地上にあって、前回も見て来たように、この神がどんなにすばらしいお方であるか明らかにして行くために必要なことは、私たちの信仰が成長し続けて行くことです。なぜなら、この26節で「**これからも知らせます。**」とされている通り、聖霊なる神は私たちに真理を解き明かして行ってくれるからです。何のためにその働きが必要なのでしょう？それは私たちがみことばによって成長して行くためです。私たちはこのみことばをしっかり学ぶことによって、みことばを通して確実に信仰は成長して行くのです。ここにおられる皆さんは何度もそのことを聞いているからよく覚えておられることでしょうか。私たちの信仰が成長するために神が備えてくださったもの、それはみことばであり聖霊なる神です。そして、私たちがそのみことばによって教えられる真理に従って行くなら、私たちは変わって行きます。みことばをただ聞くだけで何もし

なければ私たちの信仰は成長しないけれども、みことばの教えてくれるその真理に私たちが神の助けによって従って行くときに、私たちの信仰は成長して行くのです。このみことばと与えられた聖霊が私たちに真理を明らかにして行く、もちろん、こうして皆さんが教会にあってみことばを聞き、みことばを学ぶことによって私たちは真理を得て行きます。

しかし、これしか唯一の方法はないのでしょうか？カトリック教会などが言うように、一般の人たちにはみことばは難しくて分からない、ある特別の人にしか分からないのでしょうか？みことばはそのようなことは教えていません。どのようなクリスチャンであっても、信仰歴がどうあろうとも、神はあなたに真理を教えてくださいます。一人ひとりがしっかりみことばを学ぶこと、それがそれぞれの責任です。そして、神はこういう働き人を教会に与えて、いっしょにみことばを学ぶことによって真理を学んで行くのです。神があなたにどれほどみことばをもって成長するようにということを望んでおられるのか、パウロはコロサイ人への手紙の中でこのように言います。コロサイ 3：16「**キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、…**」と、ですから、私たちに神が望んでおられることは、一人ひとりのうちにしっかりキリストのことばを蓄えることです。しっかりとみことばを学ぶことです。そして、私たちはそのみことばを知恵をもって教え合って行くことです。ときには、互いに戒め合って行く、罪に対して過ちに対して「あなたは間違っている」と戒め合って行くことが必要なのです。そのようにして私たちは成長して行くのです。

2) 愛において成長するように

最後に26節の後半を見てください。「それは、あなたがわたしを愛してくださったその愛が彼らの中にあり、…」と、「それは」という接続詞があります。ここでイエスは一人ひとりが成長するように、特に、愛において、また、信仰において成長するようにと望んでおられることが分かります。なぜ、このようなことを言われたのでしょうか？それは一人ひとりのクリスチャン、あなたがこの愛において成長するためです。まず、あなたがこの父なる神に対して、よりこの方を愛する者へと行って行くことです。父がイエスを愛してくださったその愛、それが私たちのうちにあると言うのです。そのような愛をもって私たちは歩んで行くことができると、このことは、私たちが17：1-5で見てきたことに関連していることに気付くはずです。そこでイエスはご自分に関して祈られました。そこで私たちが見て来たことは、イエス・キリストは父なる神のみこころを行なって来られたし、そのことをただ願っておられたことです。イエスは父なる神に忠実に歩み続けようとされたし、そのように生きて来られたのです。では、その動機は何だったのでしょうか？なぜ、イエスは徹底的にみこころに従い続けて行こうとされたのでしょうか？それは父なる神に対する愛です。何度も言うように、神を愛するとは神の命令を守ることです。神のみこころに従い続けて行くことです。だから、愛しているのです。イエスの生き方を見たときに、父なる神に対する愛をそこに見ることができます。なぜでしょう？イエスは父なる神のみこころに従おうとされた、命令に従って行こうとされたからです。神は同じことを私たちに望んでおられると思いませんか？神の愛が、父なる神のイエスに対する愛が私たちのうちにあると言うのです。なぜ、そのような愛が私たちに与えられているのでしょうか？私たちがその愛をもって、愛する者へと行って行くためです。今まで私たちが見て来たように、神の様々な祝福を見るときに、私たちが間違いなく正しくそれを理解しているなら、その神に対して「感謝します、神さま、ありがとうございます」という心からの思いが内側から出て来ることは当然のことです。私たちはどれほどの祝福をいただいているのか、どうしてこんなに愛されているのかと、そのことが分かれば分かるほど、神に対する愛が増し加わって行くと思いませんか？イエスの生き方を見たとき、その背後にあったのは父なる神に対する完全な愛です。そして、その方は私たちにも同じようにこの父なる神を愛して歩んで行くようにと教えているのです。

知識を得ることは大切です。しかし、同じようにこの愛も必要なのです。どちらかが欠けていてはならないのです。パウロはIコリント8：1の後半でこのようなことを言います。「…**知識は人を高ぶらせ、愛は人の徳を建てます。**」と。知識だけの人、その人は高慢になります。愛だけの人、その人は間違った選択をするかもしれません。知識をしっかり蓄えることによって何が神のみこころかを知ることができます。そして、その神を心から愛することによって、その神の真理に従って行こうとします。私たち信仰者には両方必要なのです。知識だけあって神に対する愛がなければ、あのパリサイ人のようになります。愛があっても知識のない人は、いろいろなことを一生懸命やっているかもしれないけれど、真理に基いていなければそれも空しいことです。愛において成長するようにと教えています。

3) 信仰において成長するように

そして、最後に「**またわたしが彼らの中にいるためです。**」とあります。私たちの信仰が成長するように、私たちが勇敢であるように、主がともにいてくださるのだからと言います。前回も見たように、神は私たちに「私はできません、私には無理です、私はこういうクリスチャンだから、私はこういう年齢だから

ら、私はこういう状況にいるから」と、そのようないい訳をすることを望まれていません。何度も繰り返して、神は私たちに「あなたを使おうとしている、もし、あなたがそのことを望むなら」と言われます。多くの場合、私たちは用いられたくないから言い訳をします。いや、ある人は言います「用いられたいと思っています、でも…」と。「でも」と言うのは本当は用いられたくないからです。私たちがもしデザートが食べたかったら、どんなにお腹が一杯でも食べます。スポーツでも何でも、私たちがしたいことは何があってもするのです。どんなに疲れていても、どんなに忙しくても、やりたいことはやるのです。どうですか、皆さん？神に用いられたいと私たちが望んでいるなら、私たちはどんなことがあってもそのことをしていただきたい、そのことをしたい、用いられたいと願うはずです。そうしないのは、私たちの心の中に本当にしたいという思いが欠けているからです。やりたくないことは様々な口実を見つけてやらないのです。しかし、みことばが私たちに繰り返し教えていることは、あなたは神に用いいただけること、神の栄光を現わしていくことが可能になったということです。なぜなら、「わたしがあなたのうちにいるから」です。神があなたのうちにいてくださる、だから、この命令に従うことが可能になったのです。神の教えを実戦して行くことが可能になったのです。それがクリスチャンなのです。

「私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。」とピリピ4：13のみことばです。ですから、みことばを見てきたように、このような約束を神はくださったし、このようなことをみことばは私たちに教えてくれています。しかも、私たちがこの17章で見て来たように、主はあなたのために祈ってくださっている、これ以上、何が必要ですか？こんな大きな祝福を私たちにいただいているし、神が私たちのうちにいてくださるだけではない、その神が私たちのために祈ってくださっているのです。弟子たちに対する祈りを見たときに、イエスがどれほど弟子たちを愛しておられたのかを見て来ました。そして、私たちは未来の信者たち、つまり、私たちへの祈りを見たときに、すばらしいご配慮を見たのです。どれほど主が私たちを愛してくださっているかということです。ですから、イエスの歩みを見たときに、父なる神に対する愛が存在し、そして、人々に対する愛が存在したのです。それがイエスだったのです。そして、そのようにあなたが生きて行くようにと言うのです。神を愛して、兄弟姉妹と愛し合いなさい、いっしょに励まし合いながらしっかりみことばに従って行きなさい、それが本当の一致なのだと言います。ときには、励ましが必要だし、ときには戒めることが必要かもしれません。でも、そのようにして私たちがともに励まし合いながらしっかりとみことばに従って行くように、そして、あなた方が一つになるようにと言うのです。

最後に、こうして私たちはこの祈りを見てきて、その祈りのすばらしさを味わっているのですが、この祈りは私たちが天国に行くための祈りでしょうか？私たちが天国に行くための祈りでしょうか？違います。この地上にあって、どのように信仰者であるあなたが生きるかということです。神の関心は天国に行くためのことではありません。あなたが死んでからのことではないのです。今、生きているあなたに対して神は語っておられるのです。今、どのように生きて行くかです。神を愛する者として成長して行くことです。つまり、主のようにみこころに忠実に生きて行くことです。人を愛する者として成長して行くことです。主のようにどんな人にも愛を実践することです。キリストにある兄弟姉妹が愛し合うこと、また、イエスをまだ知らない人たちに対しても愛をもって接して行くことです。私たちはたくさんの祝福を神からいただいたのです。

質問です？こんな偉大な主の証し人としてあなたは生きて行きたくはないでしょうか？このような偉大な神の証し人としてあなたは生きたくありませんか？新しくされた者として今を生きるのです。天国民として、天国に行くための祈りではない、今を生きるのです。神の助けによって、そして、神の栄光のために。神の関心はあなたが今日どのようにして生きるかです。どうぞ、みことばが私たちに繰り返し教えてくれたように、神を愛する者としてみことばに従い続けてください。人を愛する者として、イエスを知らない人たちにこのイエスを証して、イエスを知っている人たちには励まし合いながらみことばに従って行くように。そのようにして今日歩んで行きなさい、明日が与えられたら明日をそのように生きなさい、それがあなたが栄光を現わす生き方であり、それがこの祝福をくださった神に対してあなたの感謝を現わす生き方なのです。